

私の好きなロシア語

国際コミュニケーション学部 1 年
古田 圭

こんにちは。国際コミュニケーション学部 1 年古田圭です。今日はボクが勉強しているロシア語について簡単に紹介しようと思います。早速ですが簡単に自己紹介をロシア語でします。

Здравствуйте! Меня зовут КЭИ. Я люблю Россию! Очень приятно!

(ズドラーストヴィチュェ！ ミニャー ザヴート ケイ。 ヤー リュブリユー ラシーユ。 オー チン プリヤートナ！)

(こんにちは！私は圭と言います。私はロシア が大好き。どうぞよろしく。)

見慣れない文字がいきなり出てきて (° д °) ポカンってなった方も多いかもしれません。そもそも、なんだこの難しそうなのはと思った方も多いでしょう。でもこの (° д °) ポカンに使われている дこそロシア語に使われるキリル文字なのです。多くなるので小文字だけ書き出すと、 а б в г д е ж з и й к л м н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы ь э ю я の 33 文字です。どうです、カッコいい文字でしょ？ボクは最初このカッコいい文字に惹かれました。しかも少し勉強すれば（意味はわからなくても）読めると知り、ボクはよりロシア語に惹きこまれました。これらは文字は表音文字なので読むにあたって必要なちょっとしたルールを学習すれば簡単に読むことができるのです。

ロシア語の中には日本語のカタカナ語として使われているものもあります。イクラ (икра)、コンビナート (комбинат)、ノルマ (норма)、インテリ (интеллигенция)、アジ

ト (агитпункт)、ツンドラ (тундра)、タイガ (тайга)、セイウチ (сивуч) といった単語はすべてロシア語からきている単語です。ところでみなさん икра をイクラって読んでますよね？これはロシア語としては 50 点です、なぜならアクセントがないから。でも英語のように「イクラ」といったふうにアクセントのある母音を高くするものではありません。ロシア語ではアクセントのある位置で音を伸ばします。イクラのアクセントは а の文字にありますから、「イクラー」と読むが正しいです。ちょっとずれますが、名古屋人が「エビフライ」を「エビフリヤー」という（これは俗説らしいが）のになんだか似ている気がします。ネイティブ発音を意識する方はお寿司屋さんでイクラ頼むときに、「イクラーください。」と試みては？

私と日本語

経営学部 2 年 ^{ゲンケイカ} 玄艺华

中国が北朝鮮と国境を接するところで生まれ私は朝鮮語を母語とする中国人です。生まれてすぐ母語を学び、小学校に入ると中国語を習い始めました。小 4 になった時英語の授業が取り入れられました。それから高校を卒業するまで、3 つの言葉は私の生活に不可欠なものでした。しかし、どれをとっても得意とは言えませんでした。

その後、日本留学を決意し、毎日日本語の勉強に没頭しました。「あいうえお」からはじめ最初はひたすら単語を覚えめました。次に文法を習い、簡単な文章を作るようになりました。その後は読解の練習、聴解の問題をやりました。日本語は朝鮮語と似たところが多くて、1 年猛勉強の末、日本語能力試験 2 級を取りました。ここまでの勉強は昔の中国語や英語の勉強と同

じでした。ただ、それ以上に努力できたのは日本に行きたいという目標があったからこそその結果だと思います。

日本に来て私は大きな壁にぶつかりました。中国の日本語の先生はいつも日本語で授業を行ったし、自分も結構勉強してきたからと思い、日常生活には問題ないだろうと自信満々でした。でも、どうしてなのかあまり聞き取れないし、まったく話せません。マックで店員さんに「店内でお召し上がりでしょうか」と聞かれたときは、意味がわからなくて適当に「はい」と答えました。もし、読解の中でこの文章が出てきたら絶対にわかります。そのとき、ふっと気づきました。私はいつも漢字で意味を知り、読むだけだったので、実際に日本語で言われると、その言葉を漢字に直すまでに時間がかかりました。言葉は読む、書くだけではなく、聞く、そして話せる、人とコミュニケーションをとるのが一番の目標です。

私は他の国の言葉を習うなら、一回ぐらいはその国に行って実際にその国の人と話し、食べ物を食べ、現地の習慣に合わせて暮らしてみても言葉もうまくなると思います。私は今、もっと日本人のように話せるようになりたいと思い、イントネーションに気をつけています。日本語は私に自信をもたらし、日本語の勉強を通して語学に興味を持ち、その魅力にはまりました。これからは、フランス語にも挑戦したいと考えています。

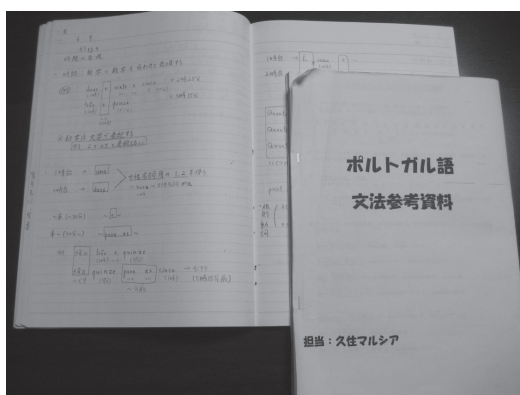
ポルトガル語を話したい 新しい変更と深まり広がる知識

地域政策学部 1 年 青山昇平

私はポルトガル語を履修していますが、選ぶとしたきっかけは地元の環境でした。生まれてから今まで豊田市に住んでいますが、工場な

どが多くある関係でブラジルの方が多く住んでいます。いつかブラジルの方とお話をしてみたいなと子供の時から思っていました。第二外国語を選択する際に良いチャンスだと思い、ポルトガル語にすることを決めました。

英語が苦手な私は授業が始まる前に、勉強しても授業についていけるかどうか、理解できるかどうかなど、ポルトガル語に対して不安になっていました。しかし、実際に受けてみると想像していたものとは違いました。英語とは似ているようで全く異なる様式で、名詞には男性名詞、女性名詞があることなどに新鮮味があり、授業を進めていく中で興味が引き立てられていきました。そして、単数や複数によって男性名



詞、女性名詞のスペルは変わってきますし、複雑なところが難点ですが、それがまた面白いです。動詞は主語に合わせて変化するので、規則動詞では語尾を変えればいいだけですが、不規則動詞になると主語に合わせた単語を覚えなといけませんし、現在形や過去形、未来形でもそれぞれ異なったりするので大変です。自分がポルトガル語を分かってきた時の面白さが良いところです。発音も独特で、巻き舌など日本語では発音しないようなアクセントが多く、声を出してポルトガル語を読むときは、なるべく先生の発音通りにするよう努めています。

授業とは関係なく、ポルトガル語は英語のスペルと似ていると思ったことがありました。授